

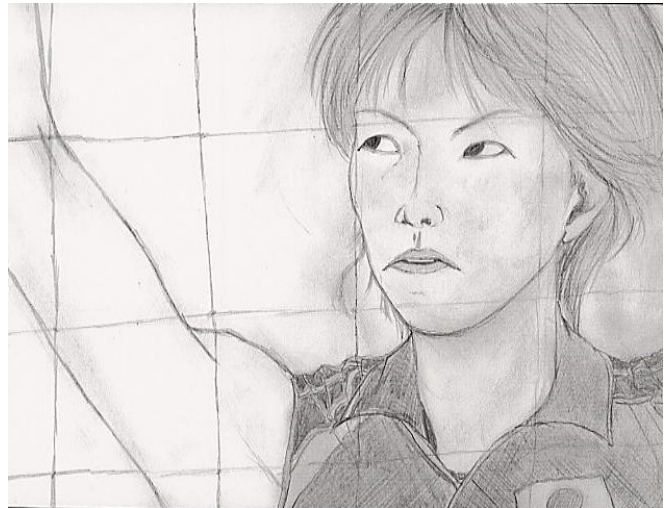
日吉台地下壕保存の会会報

第71号

日吉台地下壕保存の会

2004年度第16回総会開催される

今年は日露戦争開戦から100年目、そして日吉の寄宿舍に連合艦隊司令部が移転して60年目に当たります。さらに日吉台地下壕から指令がだされたレイテ作戦において組織的な特攻作戦が展開されてからも60年目となります。その節目の年である2004年5月29日(土) 慶應義塾大学日吉キャンパス「来往舎」において日吉台地下壕保存の会第16回総会が開かれました。総会に先立って、日吉台地下壕見学会及び「中東・イスラムそして戦争」と題して湯川慶應大学商学部教授による記念講演が行われました。中東及びイスラム史がご専門の湯川先生の講演はイラク、パレスチナと紛争地を抱える中東の諸問題を歴史的に分かりやすくお話下さり、大変好評でした。総会においては昨年度活動報告、会計報告、今年度活動方針案、予算案、運営委員人事が承認されました。以下にその全文及び講演要旨を掲載いたします。



いつもひたむきな日本女子バレー 吉原選手

講演要旨

「中東・イスラムそして戦争」

慶應義塾大学商学部教授 湯川 武

司会 社会現象を見ていくとき、二つの点に注意していく必要性を感じている。一つは正しい情報を得ること。もう一つは得た情報を歴史的観点から分析し、正しく把握していくことである。戦争の本質というものを現在紛争のまっただ中にある中東・イスラム地域の状況を正しく把握する中で考えていきたい。本講演がそのような場になることを期待したい。

講演

○はじめに 私たち日本人がイメージする中東

- ・地下壕保存の会の総会とどのようなつながりを持てるのか分からないが、つながったところが少しでもあれば意義があったと考えてほしい。
- ・私たち日本人がイメージする中東のイメージとして、月の砂漠、石油、イスラム教というものがあるが、現在は紛争地域というイメージが強くなっている。ここにはイラク戦争やパレスチナ問題があるが、この周辺地域においても紛争が絶えない。ロシアのチェチェン、ユーゴ、アフガン、ソマリア、そして時々クーデターがあるトルコ、最近政権交代は

ないが非民主的独裁政権としてのエジプト、サウジアラビアなどが挙げられる。特にサウジアラビアは王政で憲法もない。その意味では民主化を掲げ、イラクを攻撃・占領したアメリカは最も攻撃しなければならない国でなければならないが、自国と関係が緊密だから、サウジアラビアの王政についてはあまり問題にしていない。

・イスラム教についてのイメージとしては、コーラン、断食、豚を食べないなど戒律が厳しいというイメージが、また最近ではイスラム原理主義のテロということが流布されている。またイスラム教とキリスト・ユダヤ教との敵対関係を一神教の特徴から説明し、平和である日本を多神教徒であることから説明しようとする考えが近年流布されているが、太平洋戦争を忘れてしまったのであろうか。イスラム教徒は全世界で13億人は間違いなく存在するが、その大多数はごく普通の穏やかな生活をしている。

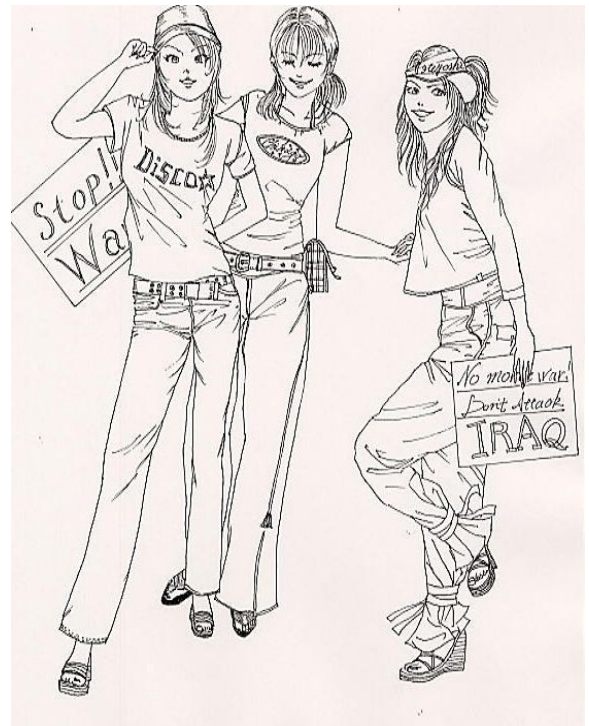
・普通のイスラム教徒(ムスリム)の人々は我々と同じように科学技術を信じ、普通の生活をしている。ただフェミニズムとはぶつかる面がある。それは女性が子どもを生み、子どもを育てるということをしっかりやったほうがいいという考えが少し強く、西欧的価値観とぶつかるところがあると考えられる人もいる。このようなイスラムのアイデンティティーを急進的に誇大に主張しているのがイスラム教原理主義である。

1. 戦争の混乱とその歴史的背景

現在紛争地帯となっているイラクとパレスチナ地域について、

①イラクについて イラクを全面支援していたアメリカ合衆国

イラクはオスマン帝国の支配の後、イギリスの植民地となった。イギリスはスンニ派、シーア派、そしてクルドの三勢力を調整しつつ、植民地化していったが、1932年にイラク王国として独立させた。1958年に王制が廃止され、混乱の時期を通して、バース党のフセインが権力を握っていった。1981年から1986年のイラン・イラク戦争ではイラクはアメリカからの全面支援を受けていた。アメリカはイラクを使い、イラン革命後反米的姿勢をはっきり打ち出していたイランをたたくという立場をとり、すでに独裁政権だったフセインを全面支援していた。イラク勝利で終わったイラン・イラク戦争の後にはアメリカはイラクを支援する理由は薄れ、関係は疎遠になっていった。イラクが海に面したペルシャ湾の領土拡大のために、アメリカの影響下にあったクウェートに侵略すると同時に、アメリカが介入し、湾岸戦争となった。湾岸戦争ではアメリカの全面勝利に終わるが、アメリカ自らがフセイン政権を打倒せず、フセイン政権が国内で倒れることを予測し、軍をひいた。しかしその後、アメリカによってイラクの石油の事実上輸出禁止という経済制裁にもかかわらず、フセイン政権は存続し続けた。アメリカはイラク敵視政策を継続させ、2003年のイラク戦争に至ったわけである。このような中で日本は1970年代から大企業を中心にイラクに入っている。



②パレスチナについて 「憎しみの連鎖」などではない

この地域もオスマントルコの支配の後、1920年から1948年までイギリスの植民地となる。1948年にパレスチナの地にアラブの反対を押し切ってイスラエルが建国される。以後何度もアラブとの戦争、中東戦争が引き起こされることになる。中東戦争では英仏は前面から引き、直接的にはイスラエルとエジプトの戦争となる。その中でエジプト

のナセルがアラブの英雄となっていた。第四次中東戦争ではアメリカが関与し戦争を終結させる。その中でそれまでエジプトを支援していたソ連などが後退する。第四次中東戦争後にエジプトとイスラエルは和解し、本来主役とならなければならないパレスチナ人の抵抗運動は置いてけぼりにされてしまう。1970年代から強固になっていったPLOが主導し、1987年にはじめてパレスチナ人がイスラエルの占領地の内側から「投石」でもって戦いを起こす。いわゆるインティファダである。世界にパレスチナのイスラエル占領地の様子が明らかにされた。それまで世界はイスラエルよりとなっていたアメリカからの情報に頼っており、実態があまりつかめていなかった。1993年のキャンプデービットの合意で、アラブとイスラエルを分離国家としていくことで和解が成立した。しかしイスラエルはその実施を引き延ばし、紛争は絶えなくなる。そして2000年秋に第二次インティファダが起きる。テレビでは憎しみの連鎖などといっているが、そんなものではない。テロによるイスラエルの被害に対して10倍以上のパレスチナ人が殺されている。貧しさがテロを誘発し、テロがパレスチナ人への規制や移動の制限を更に厳しくし、経済活動が成り立たなくなり、生活が悪化し、それが若者を自爆テロに駆り立てるという悪循環が起きている。パレスチナ人にとっては「テロ」ではなく、生きるための「抵抗」なのである。

2. 民主主義を建前とした圧倒的軍事力による支配の現実

文明対野蛮的オリエンタリズムの図式の誤り

イラクではアメリカが、パレスチナではイスラエルが民主主義の実現を建前にしながら、軍事的支配を強化している。それに対してイラクではサダム排除までは容認していたアメリカの軍事占領に対して、一般の民衆から抵抗が始まっている。イスラエルは中東唯一の民主主義国家である。しかしこの国は、旧約聖書の選民思想に依拠し、また神話時代ないしローマ時代にさかのぼった歴史に依拠してパレスチナの地に何千年もの間居住していた人々を強制的に排除し、建国した訳である。アメリカやイスラエルなどの抑圧者と抵抗側との間には圧倒的な力の差がある。治安が悪化しているといわれているが、それは当たり前の話である。というのはアメリカがイラクの警察機能まで徹底的に破壊してしまっているからである。またイスラエルではパレスチナ人の中にスパイ網を張り巡らし、ハマスの指導者の日常的な動きまで正確に掴み、指導者が車椅子で移動するところをヘリコプターからの爆撃で殺害している。車椅子には探知機が取り付けられていたという話もある。自爆テロの犯人が分かるとその犯人の居住地全体を爆弾で破壊してしまう。徹底した攻撃で空き地にしてしまうすさまじいやり方をしている。憎しみの連鎖といわれているが誤りである。連鎖になっていない。イスラムが抑圧に対する抵抗のよりどころになっており、イスラム、イラクではシーア・スンニ両派の民兵、パレスチナではハマスとなってきている。このような動向はアメリカが喜ぶ。何故ならばアメリカの民主主義対イスラム、西欧対非西欧、文明対野蛮、文明対テロという構図を証明することになっていくからである。このような西欧の優位を正当化する言説に乗ってはならない。

3. 今なすべき事

- ・ 占領状態をなくし、地域の人々の判断と知恵に託すこと。
- ・ 今必要なことはとにかくアメリカ、イスラエルの軍事占領を止めること。
- ・ まずはその地域の住民にその地域の政治を任せることが必要である。占領を解くと混乱するという論調自身が「奴らは遅れている」というオリエンタリズムの考えに毒されている。
- ・ 解決の道は遠いが、このような立場に立てば中東、イスラム紛争も違った目で見ることが出来るはずである。

さらに詳しく知りたい方は以下の文献をお読み下さい。

○参考文献 ホーラーニー、アルバート(湯川武監訳)『アラブの人々の歴史』

第三書館

2003年

(文責 茂呂 秀宏)

○2003年度活動報告

2000年4月に慶應義塾が地下壕入り口を整備して以来、見学者を安全に案内できるようになりました。いまでは毎月第4土曜日の定例見学会には小学生から中高年まで幅広い年齢層の人々が参加しています。地下壕見学が児童・生徒の「調べ学習」や「平和学習」として定着化し、今年度は小学校3校、中学校2校、高校3校、大学3校を案内しました。2004年5月21日には兵庫県の中学校が修学旅行で地下壕を見学しました。慶應義塾OBの見学希望者も多数ありました。保存の会としては年々増加する地下壕見学の希望に対応できるようにガイド講座を設けるなど、案内人を養成する必要を感じています。

保存の会は2003年4月27日に戦争遺跡保存全国ネットワーク代表 十菱駿武氏に運営委員が同行して、文化庁調査官とのヒアリングで史跡指定詳細調査の進捗状況を伺いましたが、文化庁では2004年秋頃からまとめを始めるようです。

戦争遺跡保存全国シンポジウム大分県宇佐大会には7名が参加し、分科会で保存活動について発表しました。横浜大空襲の資料を中心に毎年開催される「平和のための戦争展 in よこはま」に今年度も展示で参加しました。

第11回横浜・川崎平和のための戦争展(10月19日～26日)を慶應大学来往舎で開催し、2000人を越える来場者があり成功裏に終了しました。特に19日は慶應連合三田会大会の開催日であり、慶應義塾OBの来場者が多かった事が特筆される所です。

その他、本の出版については「日吉台地下壕」のブックレットを出版準備中です。2003年6月に「日吉」も含む全国の戦争遺跡を紹介した、岩波ジュニア新書「戦争遺跡から学ぶ」(戦争遺跡保存全国ネットワーク編)が出版されています。2004年5月4日にはじめて見学バスツアー(千葉県館山市)を実施し、会員の学習・交流を深めました。

日吉キャンパスのBブロック地下壕部分(航空本部・軍令部)に住宅の開発許可申請がされたことは昨年の総会で報告しましたが、この開発許可が2004年3月19日に下りました。保存の会は直ちに開発に反対する住民の会と共に、横浜市開発審査会に審査請求書と工事の執行停止申立書を提出しました。6月2日には公開による「口頭審理」が行われます。斜面緑地の貴重な緑と文化財の破壊を防ぎたいものです。

○日吉台地下壕保存の会

会員数 280名 6団体 (2004年5月現在)

定期総会開催 2003年5月17日

運営委員会開催 11回

会報発行 4回 67号(7/2) 68号(9/16) 69号(1/15) 70号(4/20)

地下壕見学会 45回 参加者1684名 (5/22現在)

(見学会中止期間 8/23～9/23 歩道の整備 ・ 10/5～30 漏水箇所の整備)

※第7回戦争遺跡保存全国シンポジウム大分県宇佐大会参加(7名参加)

8月23～24日 会場 宇佐文化会館「ウサノピア」 宇佐市民図書館

分科会報告 「日吉台地下壕の保存運動 この1年間の活動と成果」

岡上そう 富澤慎吾

***第11回横浜・川崎平和のための戦争展**

「日吉キャンパスにみる戦時下の青春 学徒出陣60年」

開催 10月19日～26日 会場 慶應大学日吉キャンパス来往舎

主催 横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会

日吉台地下壕保存の会

慶應義塾日吉学術フロンティア ー空間と人間ー

展示 日吉キャンパスを中心に戦時下の青春像を明らかにする写真や実物

(学園生活 学徒出陣 戦没者の遺品 当時のポスター他)

戦争遺跡 (日吉台地下壕 登戸研究所 蟹ヶ谷通信隊地下壕) の写真他

講演・シンポジウム

「日吉台海軍連合艦隊地下壕の学術調査報告」

桜井準也氏 慶應義塾大学助教授 考古学

「若者からの提案 体験を受け継ぎそして平和を創る」

「連合艦隊 陸にのぼる」

山田朗氏 明治大学教授 日本近現代史

関連フィールドワーク 戦争を歩く・みる・ふれる ーピースロード多摩丘陵ー

日吉台地下壕見学 11/8 11/23

生田を歩く(登戸研究所) 11/9

***平和のための戦争展 in よこはま参加展示**

8/8～10 神奈川県民サポートセンター

***見学バスツアー 5月4日 千葉県館山市の戦争遺跡 参加者17名**

「南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム」愛沢伸雄氏他の案内

***慶應大学日吉キャンパスBブロック地下壕部分(航空本部・軍令部・東京通信隊)の開発について**

2004年3/19 開発許可が下りる

3/23 横浜市開発審査会に審査請求書と執行停止申立書を提出

4/9 横浜市長より「弁明書」

5/6 「反論書」提出

① B 地下壕

(航空本部・軍令部)

マンション開発許可

2004年3月19日

④ 箕輪 艦政本部地下壕

2001年横浜市により

一部埋め戻される 文化

庁の調査終了まで中断中

○2003 年度 決算報告

(単位 円)

費 目	2003 年度予算	2003 年度決算	備 考
【収入の部】			
会 費	300,000	285,930	204 名・5 団体
見学会資料代	100,000	432,200	
図書等頒布	0	11,700	
雑 収 入	0	3,500	カンパ等
繰 越 金	279,577	279,577	
計	679,577	1,012,907	
【支出の部】			
運 営 費	90,000	141,650	各種会合・打合せ等
事 務 費	80,000	59,674	事務用品費等
印 刷 費	35,000	23,940	会報・資料等
通 信 費	170,000	138,733	会報郵送費
資 料 費	50,000	27,495	書籍・資料等
頒布図書購入費	50,000	32,840	
交流・交通費	70,000	64,880	全国集会・各平和展賛助金
謝 礼	20,000	5,000	講演・学習・調査等
行 事 費	30,000	0	
予 備 費	84,577	0	
合 計	679,577	494,212	
差引残高		518,695	

以上の通り報告します

2004 年 5 月 15 日

日吉台地下壕保存の会

会 計

白鶴 邦子

印

この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査

天野 喬子

印

会計監査

新井 千代子

印

○2004年度日吉台地下壕保存の会 運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問

会 長	大西 章				
副会長	新井 揆博	鈴木 順二			
運営委員	岩崎 昭司	上野 美代子	大久保 隆	岡上 そう	
	亀岡 敦子	喜田 美登里	桜井 準也	白鶴 邦子	
	鈴木 高智	谷藤 基夫	常盤 義和	都倉 武之	
	富澤 慎吾	中沢 正子	中谷 俊吾	林 ちづ	
	宮本 順子	茂呂 秀宏			
会計監査	天野 喬子	新井 千代子			
顧 問	永戸 多喜雄	佐藤 林平	鮫島 重俊		
	白井 厚	東郷 秀光			

○2004年度活動方針

日吉台地下壕保存の会が発足して、今年で15年目になります。約280名の会員の方々、約20名の運営委員で地下壕保存のために活動をしてきました。また、日吉地域住民の方々や全国保存運動に携わっている方々とも協力して活動を行ってきました。

この15年間の活動を振り返ると慶應義塾に地下壕の整備の働きかけ、地下壕見学会の開催、横浜・川崎平和のための戦争展の開催、戦争遺跡保存全国シンポジウムの参加・発表、戦争遺跡指定のための文化庁・横浜市への働きかけ、地下壕関係者の聞き取り調査、地下壕の学術調査、全国の戦争遺跡の見学ツアーなどいろいろと地道に活動を続けてきました。その中、地下壕が整備されたことにより1年間で1500名を越える多くの人を地下壕に案内出来、また文化庁が近代遺跡指定のための詳細調査の対象に指定するなど少しずつですが、この保存運動が実を結び、日吉台地下壕の社会的な認知が増し、保存の重要性が大きくなってきました。

また、この15年間我々が学習してきたことをまとめた日吉台地下壕のブックレットの編集に、この2年間精力を注ぎできました。この夏に出版する予定です。

大量の情報が行き交い、いろいろな文化が衝突する国際社会で「大義」とは何かが不確かになり、しかしそれを判断しなければならない現実の中で、「平和とは何か」をしっかりとした視点で考えることの重要性はますます大切になってきました。特に、若い世代にTVなどから入る情報以外にも、悲惨な戦争を現実の「モノ」として提示して、「平和とは何か」を考えてもらうことは大人の責任だと思います。

我々はこの15年間で運動を続けていくことの大切さを学びました。この1年も今までと同じように、しかし昨年度より少し前進した活動を会員や日吉地域の方々、全国で戦跡保存活動に携わっている方々とまた慶應義塾と協力して行っていきたいと考えています。

そのために以下の活動方針を提案致します。

活動方針

- 日吉台地下壕内の整備・活用方法を考え、その実現に努力する。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させ、より頻繁に開催する。
- 小中高生徒のための見学会を開催していく。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを地域の方々と連帯して行う。
- 全国の戦争遺跡保存の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 日吉台地下壕平和資料館建設を目指し、実現に努力する。
- 運営委員会の活動の充実と強化をはかる。

○2004年度 予算

(単位 円)

費 目	2004年度予算	備 考
【収入の部】		
会 費	212,000	
見学会資料代	300,000	
図書等頒布	0	
寄付金等収入	0	
繰 越 金	518,695	
合 計	1,030,695	
【支出の部】		
運 営 費	170,000	各種会合・打合せ等
事 務 費	80,000	事務用品費等
印 刷 費	50,000	会報・資料等
通 信 費	170,000	会報郵送費
資 料 費	50,000	書籍・資料等
頒布図書購入費	50,000	
交流・交通費	100,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	50,000	講演・学習・調査等
予 備 費	310,695	
合 計	1,030,695	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2004 年 5 月 29 日

日吉台地下壕保存の会
運営委員会

○館山「赤山地下壕」見学

ピース・ツアー開催される。

新緑ゴールデン・ウィークの5月4日（火）、「アジア太平洋戦争下の東京湾防衛構想を探る」と題して、館山・「赤山地下壕」見学バス・ツアーが行われました。これは日吉台地下壕保存の会として初めての会員公募のツアーで17名が参加しました。

当日はメイ・ストームとか西の方からお天気が大荒れで心配されたのですが、大雨にも降られず、無事一日の旅を終えることが出来ました。

早朝日吉慶應大学正門前に一行は集合し、マイクロバスで一路、アクアライン経由で館山へ。運転はプロの岡上氏で安心、安全そのもの。海ほたるでトイレ休憩。車内で自己紹介やら、会の活動報告やらで過ごしているうち、3時間足らずで館山近辺へ。道の駅で案

内役、南房総戦跡フォーラムの愛沢伸雄氏と合流。バスに同乗していただき、館山の歴史概観から懇切なガイドをしていただきました。

○主な見学地

岩井袋 特攻艇「震洋」基地跡 三芳村海軍特攻機「桜花」基地跡
 夕日海岸ホテル・語り部のお話「夕焼けと1枚の写真」 ・昼食・海ほたるを見る
 かにた村「従軍慰安婦」慰霊碑 「本土決戦」抵抗拠点128高地「戦闘指揮所」「作戦室」地下壕跡 館山海軍航空隊「赤山地下壕」(要塞)跡
 1945年9月3日アメリカ占領軍上陸地点

特別投稿 1

驚きと悲しみの館山紀行

白井 厚

- ・岡上さん運転のマイクロバスで、丘の上だけでなく、海上も海底も快適に館山へ。
- ・秘密の旧要塞地帯は新発見続出の地帯だった。まず、特攻艇基地の岩井袋港。「桜花」発射台跡を見て驚く。これを見ずして岩波ブックレットに特攻隊について書いたことを後悔。知らざりし、特攻基地がこんなに近くにあったとは。
- ・夕日海岸ホテルで語り部松苗礼子さんの「夕焼けと一枚の写真」というお話を聴く。遠くから集められた水兵の世話をした一家の思い出。日はまた昇るのに、遂に帰らぬ水兵は水漬く屍か。
- ・128高地は戦闘指揮所。壕内の天井に龍が彫られていた。変幻自在の目出度い動物だからかも知れないが、「伏竜」「海竜」「蛟竜」などの無駄な特攻兵器を思えばいと悲し。
- ・かにた婦人の村を訪れてその由来を聞き、「噫 従軍慰安婦」の碑を見ると更に悲しい。戦争の犠牲者は兵隊だけでなく、敵味方を問わず、その家族、一般市民、そして慰安婦。日吉で命令を下している高級軍人や学徒兵のことだけ考えていると歴史の真実を見失うと反省。
- ・かなり大きい赤山地下壕を見てから、米軍本土初上陸の浜へ。私が麻布で海軍の壕掘りを手伝っているとき日本は敗戦。鬼畜米英の占領軍から姉を守るため父の故郷(千葉県安房郡吉尾村)へ満員の車でやっとたどり着き、山村の農家にしばらく潜伏した。知らざりし、すぐそばの館山に米軍が上陸し、4日間の軍政を行っていたとは。
- ・帝都防衛を命ぜられ集まった数万の皇軍、ついで初上陸の米軍、ついで海上自衛隊館山基地。国定公園の中心で風光明媚の海岸には房総フラワーラインが走る館山だが、
 「何ごとぞ、花見る人の長刀(なががたな)。」

特別投稿 2

館山の空の向こうに

岡上 そう

まずはじめに岩井袋港にある、地下壕を見ました。ここはおそらく特攻兵器「回天」を格納するための地下壕だったのではないかと・・・という説明でした。岩井袋港では特攻兵器の練習をしていたらしいです。バスで移動し、小高い丘を登ると畑の中に20メートルくらいでしょうか？特攻兵器「桜花」を館山上空のアメリカ軍にむけて瞬時に撃ち出させるためのカタパルトの跡です。桜花は飛距離が20キロで、爆弾はかなり重たいのを搭載していたそうです。結局は実際に使われることなく終戦。



回天格納壕



カタパルト跡

このカタパルトの先には絶望的に輝く青い空が、おそらく兵士の目には見えただけではないでしょうか……

とても印象的なところでした。

バスで移動、「128高地」と呼ばれていた山のかなり高い中腹にある地下壕に行きました。自分はバスの鍵を締めていたりで、説明はあまり聞けませんでした(>_<)

この地下壕はコンクリートで固めてありますが、日吉とは全然造りがちがいました。おそらく素堀にコンクリートを塗って仕上げているのでしょう。見た目は角がなく、きれいですが、強度はなさそうです。天井に龍のレリーフがあり、そのまま美術展ができそうな空間でした。

そこからさらに山を10分ほど登ると、山頂に「従軍慰安婦の慰霊碑」があります。山頂からは世界が一望できます。とても言葉では言い表せない深い悲しみが曇り空に漂うのでした。

山頂から来た道を下ると教会みたいな建物があり、ここ（かにた婦人の村と言い、障害者や元従軍慰安婦の方たちのための国が作った施設）で亡くなった人たちの納骨堂が地下にあります。戦争は兵士だけでなくあらゆるものを犠牲にしてしまうのだと、あらためて思いました。

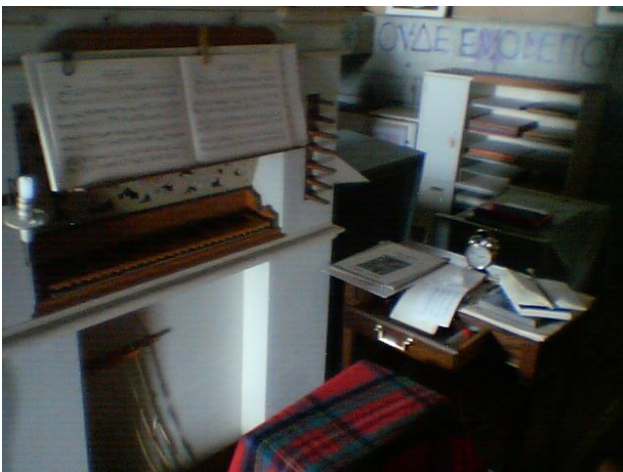
教会にはとても小さくて古いパイプオルガンがあり、バッハなどが奏でられるそうです。そとに出ると、眼下に広がる街と海がきれいでした。晴れていればもっと美しいのでしょう。この画像では見づらいですが、これは「館空」（たてくう）と呼ばれていた「館山航空隊」があった場所なのです。みんなここで飛行訓練をしてから戦地へ向かったそうです。今は自衛隊館山航空基地として、イラクへ向かうパイロットの訓練の場として機能して



従軍慰安婦の慰霊碑

います。まさに過去と現在を結びつける歴史的な重みを感じました。

バスで移動し、赤山地下壕へ。ここは市が運営するいわば観光地であり、ヘルメットや懐中電灯を義務づけられます。もちろんヘルメットは貸してくれます。地下壕の保存に観光を利用というか活用と本人は言っておられましたが、互いの歩み寄りでなんとかうまくやっているようです。中はかなり広く、新井さんは横須賀の貝山地下壕と似ていると言っていました。この地下壕はほとんど何も明らかになっていない、と言っても過言ではないでしょう。ほとんど



パイプオルガン

素堀で、縦横にはりめぐらされています。松代同様に中は電灯でかなり明るいです。地質がサガンのためか、ずいぶんと丁寧に掘られていました。いつこの地下壕が掘られたかは明らかではありません。新井さんはこのあたりに調査研究の指摘をしていました。

赤山地下壕は発電機跡なども残っており、3000ボルトのガイシもありました。出口近くには通気抗の穴が天井にあり、空が見えました。



赤山地下壕

た厚木は有名ですが、こっちは誰も知らないという・・・ビデオによる画像も残っているそうです。戦時中はこの場所は水上飛行機の練習場で、今も当時のまま、なだらかに海辺へと続くコンクリートの斜面が残っています。今は船着き場として利用されています。



自衛隊館山航空基地

そして夕方4時過ぎ、さっきの館山のすぐ横の海辺に降りました。ここは1945年9月3日米軍が初上陸した場所なのです。マッカーサーが来



1945年9月3日米軍が初上陸した場所

ご案内

第8回戦跡シンポジウム館山大会のご案内

東京湾の入り口館山は、古代から軍事戦略上重要な役割を果たしてきました。20世紀に入り東京湾要塞地帯の拠点として館山海軍航空隊、館山海軍砲術学校など様々な軍事施設が置かれました。「赤山地下壕」はアジア太平洋戦争以前から海軍が地下航空要塞として秘密裏に掘削し、本土決戦に向けても「日吉台地下壕」と並んで重要な意味を持った「地下軍事施設」です。

この夏の「戦争遺跡保存全国シンポジウム」は南房総でおこなわれ、海軍航空隊の基地跡、掩体壕の残る茂原と館山一帯の軍事施設跡を見学します。館山市と茂原市はシンポジウムに対し協力的で、館山市は「赤山地下壕」を史跡指定する方向であり、04年4月から南房総文化財・戦跡活用フォーラムが発足し、民間と自治体との協力による戦跡活用の準備が進んでいます。さらに館山市では戦争遺跡を「まちづくり」の視点から平和学

習教材として保存活用してはどうかという画期的な「館山歴史公園構想」を発表しています。

日吉台地下壕保存の会では第1回からこのシンポジウムに参加し、全国的な戦跡保存運動の盛り上がりに参加してきました。今年も全国の活動を学びに御一緒に参加しましょう。

テーマ：南房総に戦争の傷跡を見て、戦跡の保存と活用を考える

1. 開催日 シンポジウム 8月21日(土) 午後～22日(日)
フィールドワーク 8月20日(金)・21日(土) 午前 23日(月)
2. 開催地 千葉県 館山市・安房地区・茂原市
3. 会場 : 館山夕日海岸ホテル
館山市八幡822 交通: JR内房線館山駅より徒歩15分
TEL 0470-23-8110
FAX 0470-23-8110
4. 日程
 - 8月20日(金) 現地見学会Ⅰ 10:00～16:00
JR外房線茂原駅集合 茂原市「茂原海軍航空隊基地跡と掩体壕群
夷隅町「特攻桜花43乙型基地格納庫と旋回盤」 昼食 総南博物館見学
大原町「第7特攻戦隊第12突撃隊特攻回天基地跡」
館山市へ
 - 8月21日(土) 現地見学会Ⅱ 9:00～11:00
館山市「館山海軍航空隊赤山地下壕」
全国ネットワーク総会 11:00～12:00
(以下 於: 館山夕日海岸ホテル)
 昼食 12:00～13:00
 受付 12:30～13:00
 全体集会・開会式 13:00～15:30
 オープニング合唱組曲「ウミホテル～コスモブルーは平和の色」 館山市合唱連名
 基調報告 「戦跡の現状と課題2004」(戦跡全国ネット)
 地域報告「千葉県館山市における戦争遺跡の保存と活用 過去・現在・未来」
 杉江敏(館山市教育委員会生涯学習課文化係長)
 分科会 第一分科会「戦争遺跡保存運動の現状と課題」
 第二分科会「調査方法と保存整備の技術」
 第三分科会「平和博物館と次世代への継承」
 特別分科会「南房総平和活動シンポジウム～女性の目から見た平和」
 天羽道子(かにた婦人の村施設長)
 きくちゆみ(環境・平和活動家、翻訳家)
 宇梶静江(アイヌ布絵作家)
 ウミホテル鑑賞会 夕食交流会 18:00～20:00
 - 8月22日(日) 分科会 9:00～12:00
 第一分科会「戦争遺跡保存運動の現状と課題」
 第二分科会「調査方法と保存整備の技術」
 第三分科会「平和博物館と次世代への継承」
 松苗礼子(平和の語り部) 他 証言者2～3名
 昼食 12:00～13:00
 全体集会 記念講演 早乙女勝元氏 13:00～14:30

「平和の語り部としての戦争遺跡」

全体集会・分科会まとめ
大会アピール
閉会式

8月23日(月)

○現地見学会Ⅲ 9:00～15:00

館山市・本土決戦「戦闘指揮所」壕跡 「嗚呼従軍慰安婦」石碑(かにた婦人の村)
波左間特攻基地 州崎第2砲台跡

○見学会Ⅳ 9:00～16:00

富浦町・東京湾要塞地帯 大房崎砲台関連施設 館山市州の崎海軍航空隊射撃場跡
米占領軍初上陸地点

5. 費用

大会参加費	1,800円
宿泊費 館山夕日海岸ホテル	10,000円 (20日、22日) 1泊2食
	7,000円 (21日) 1泊朝食
交流会費	5,000円 (21日夕食)
見学会Ⅰ	博物館入館料・昼食代込み 1,500円
Ⅱ	ガイドブック代のみ 600円
Ⅲ	バス代 昼食代込み 3,000円
Ⅳ	バス代 昼食代込み 3,000円
昼食	館山夕日海岸ホテル 1,000円

6. 参加申し込み 戦跡保存全国ネットワークに申し込めますが、日吉台地下壕保存の会会員の方は、会で一括して申し込めます。御一緒に参加しましょう。お問い合わせ下さい。

会員連絡先 喜田 TEL・FAX 045-562-0443

緊急報告 第4弾!

航空本部地下壕「マンション建設」について

開発審査会に「執行停止」「審査請求」申し立て「公開口答審理」開かれる。

これまでの会報でお伝えしてきましたが、日吉台地下壕群の中の一つ、新幹線下の航空本部地下壕入り口4ヶ所が斜面緑地マンション建設に伴い、破壊されそうな情勢です。

横浜市がこの3月19日、マンション建設業者に対し建築許可を行ったことについて、3月23日日吉台地下壕保存の会運営委員会有志及びマンション建設に反対する住民の会は横浜市開発審査会に対して、審査請求書及び工事執行停止申立書を提出しました。市からは、申立人には申し立てによって利益を得る資格が無いこと、あくまで都市計画法に基づいて許可を行ったということを骨子とし「執行停止」と「審査請求」について却下を求める弁明書が出されました。

6月2日(水) 関内の駅前第二ビルにて開発審査会によって「公開口答審理」が開かれ、会から申立人の運営委員有志3名と傍聴人1名が参加しました。また市から2名の陳述人が出席しました。傍聴人の中には業者2名も来ていました。住民の会から申立人4名と傍聴人2名が参加し、申立人は審査委員5名の前でそれぞれ意見の陳述を行いました。

住民の会からは業者から提出されている設計は戸建て2戸分のもので、そのための道路は4m道路で良いはずなのに、始めから5m道路を作ろうとしているのはマンション建設のための設計変更を前提としている、それを市がとがめないのはおかしいという追求があり、それに対して市はあくまでその時提出された設計に対して許可を行っていると主張しました。保存の会3名は航空本部地下壕が文化庁の史跡候補にあがっていること、地下壕は近代の文化財として大変な重要性を持っていることをそれぞれ述べました。

今後審査会審査が行われ、審査決定が出されますが、状況は決して有利ではありません。市の工事許可を認める決定が出されることが十分考えられます。

海軍航空本部といえば、かの山本五十六元帥が戦前海軍省で航空機開発のために本部長として心血をそそいだ部署であり、日本の航空機開発の歴史にとっても重要なところですよ。もし工事許可を開発審査会も認めるならば他の先進自治体と比べ、横浜市の歴史認識の浅さを後世にまで残すことになるでしょう。

会員の皆様には今後の推移を是非ご注目下さいますようお願いいたします。

（文責：運営委員 谷藤基夫）

（続報）緊急報告 第5弾！

「審査請求」「工事執行停止請求」却下！

採決の結果はやはり「却下」でした。しかも保存の会の主張した航空本部地下壕の史跡、文化財としての重要性については一言も触れることなく……。ただ審査請求人にはその適格性が欠けるということで……。いわば門前払いの形で……。この結果は他の先進自治体と比べ横浜市の近現代史に対する認識の後進性、浅薄さを如実に示すものです。工事はいつ始まってもおかしくない状態になりました。航空本部地下壕入り口4ヶ所はきちんとした学術的調査を経ることなく、間もなく取り壊されるでしょう。業者は利益のために緑地を破壊し、マンションを建設し、転売し、去っていくでしょう。「過去に目を閉ざすものは結局の所現在にも盲目となる。」ドイツのヴァイツゼッカー元大統領の名言が思い出されてなりません。

6月22日付けで横浜市開発審査会会長より、審査請求人総代（茂呂秀宏外8人）及び処分庁（横浜市長）に対し、裁決書が送付されました。主文「本件審査請求を却下する。」理由は請求人と処分庁双方の主張を列記した上で、「審査会の判断」として、「開発行為に関わる設計等が都市計画法第33条の規定に適合しているときは市長は必ず許可をしなければならない」また「都市計画法第33条の規定自体は開発区域周辺の個々の住民に対して直接に個別・具体的な権利を付与されるとは解されず、審査請求人は本件処分の取り消しを求める審査請求人適格を有しない」従って「本件審査請求は審査請求人としての適格性に欠ける不適法な審査請求であるから、その余については判断するまでもなく行政不服法第40条の規定を適用して、これを却下する」というものです。

却下の裁決を受け、保存の会及び住民の会では今後の方向性について検討しています。

7月2日（金）宮前公会堂において住民の会の話し合いが行われ、保存の会からも2名が参加しました。話し合いの内容は主にこれまでの経過報告で、オブザーバーとして同じ港北区内で里山の自然を守る会の方と赤門坂の斜面緑地マンション建設に反対して係争中の住民の方がこられて、経験を報告してくださいました。今後についてはさらに検討が進められます。

（文責：運営委員 谷藤基夫）

寄稿

星祭りの広場～丹沢から“今”に語り継ごう～に参加して

運営委員 岡上 そう



7月3日(土) 13:00～16:30 かながわ県民センター304号室にて、「星祭りの広場～丹沢から“今”に語り継ごう～」という七夕イベントが行われました。

このイベントに私こと会員の岡上も出演させていただきました。この星祭りの面白いところは様々な分野の人たちが、いろいろな方法で表現している点にあると思います。

具体的には、まず始まりにみんなで民族楽器を演奏し、楽しむ。そして奥野幸道さんによるブナ森のスライド鑑賞～主催

者でもある梶谷泉さんによるブナ森や平和への思いを綴った詩の朗読～高村雅博さん塚田滋さんによる相模湖ダム建設に動員された中国人、朝鮮人の強制連行の記録活動のビデオ～そして飛び入り参加の関根会員からの花岡事件についての現地レポート～休暇～小園弥生さん歌、相馬正男ギターによる、戦没詩人「竹内浩三」の歌を届ける旅～そして私、岡上漱の「日吉台地下壕から今に放つメッセージ」と題して、オリジナル曲7曲、アコースティックギターの弾き語りをしてきました。歌の内容は主にイラク戦争やアフガン等、現在の問題の根元的な場所にスポットを当てたものが多く、日吉台地下壕の歴史的役割と、今保存されているなかでの活用といった点で、将来的には、「当時、海軍の作戦を練っていた地下壕で、これからは平和へのメッセージを発信したい」と、音楽や美術、演劇等での活用案をアピールしてきました。

このような複合型のイベントはまだチカラは小さなものかもしれませんが、これから時代、自由な表現方法でイベントを開催し、より多くの世代に伝えて行く、そういう活動が盛んになっていく事を目指します。これからの新しいカタチでの表現、伝達方法だと考えます。

でも、本当は誰も音楽や美術で平和等を叫ばなくていいくらい世界が微笑みに満ちていればいいのだけれど・・・



お知らせ

本年度も10月17日(日) 慶應連合三田会当日より1週間、日吉来往舎ギャラリーで展示及び講演会を開催します。

活動の記録 (2004年4月～6月)

- 4/20 第10回運営委員会 会報70号発送(慶應高校物理教室)
- 4/24 定例見学会 世田谷親子劇場他 38名
- 4/27 文化庁調査官とのヒアリング 史跡指定詳細調査の進捗状況について
(全国ネットワーク代表・保存の会運営委員)
- 5/4 見学バス・ツアー 千葉県館山市の戦争遺跡 参加者17名
「南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム」愛沢伸雄氏他の案内
- 5/6 横浜市開発審査会に反論書を提出(航空本部地下壕部分のマンション建設
について)
- 5/11 第11回運営委員会(慶應高校物理教室)
- 5/21 兵庫県三原郡西淡町立辰美中学校の修学旅行 42名
- 5/22 地下壕見学会 歴史散策の会 46名
- 5/28～30 「平和のための戦争展 in よこはま」開催(県民サポートセンター)
展示参加
- 5/29 定例見学会 セカンドライフ・クラブ他 43名
2004年度第16回定期総会(慶應大学来往舎)
記念講演「中東・イスラムそして戦争」
湯川武氏(慶應義塾大学商学部教授)
- 6/2 横浜市開発審査会口頭審理(住民の会・保存の会7名が意見陳述)
- 6/5 地下壕見学会・学習会 和光大学アロエ会 7名
- 6/18 地下壕見学会 慶應義塾大学文化人類学講義(桜井先生)
- 6/25 第1回運営委員会(慶應高校物理教室)
- 6/26 定例見学会 一橋大学濱谷ゼミ 目黒区生協連絡会他 24名

予定

- 7/16 第2回運営委員会 会報71号発送(慶應高校物理教室)
- 7/24(土) 定例見学会

▲定例見学会は毎月第4土曜日に行っています。なお日程が変更する場合がありますので必ず見学窓口に申し込んでください。(見学申込先 Tel&Fax 045-562-0443 喜田)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 Tel 045-561-2758
(見学会・その他) 喜田美登里: 港北区下田町2-1-33 Tel 045-562-0443
ホームページ・アドレス: <http://www.geocities.HeartLand-Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 1口1000円以上

発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会

戦中・戦後の私の学生生活（１）

柳屋 良博

柳屋良博氏プロフィール

旧制山口中学から昭和１９年４月慶應義塾大学文学部予科入学、勤労働員の後、昭和２０年６月山口で陸軍に入隊、終戦後復学、慶應大学卒業後慶應大学日吉研究室職員、慶應大学三田情報センター整理課長、日吉情報センター副所長等を歴任され、平成４年３月定年退職されました。

この度戦中、戦後の慶應義塾大学の一学生としての生活を詳細に書きつづっていただきました。貴重な記録ですので、今後何回かに渡って連載いたします。お楽しみにお読み下さい。

昭和19年度．．．大学予科一年

昭和19年3月5日、大阪府堺市浜寺公園の羽衣高女で慶應義塾大学予科入学試験の一次が行われてこれを受験、上京して3月20日二次試験を受け（信濃町・医学部・北里図書館講堂で口頭試問、病院内で身体検査）、昭和19年4月慶應義塾大学文学部予科に入学した。当時は六大学野球も行われておらず、口頭試問に備えて福沢諭吉について調べてみたが、使用していた国史教科書の一か所に名が挙げられているにすぎず、慶大については何の知識も持ち合わせていなかった。入学試験が東京の外に大阪で行われるのであれば、山口県在住の私にも受験が可能となり、京都の三高に進学した友人と二人で受験したのである。

予科校舎（日吉第一校舎）の正面玄関右側（南側）は大日本帝国海軍軍令部の専有するところであり、生徒は左側部分を使用した。このため生徒の出入りは主として第二校舎（医学部予科）に面した出入口を使っていた。なお南寮は連合艦隊本部として使われたと聞いている。一年生の自分たちは一階だったが、特定の固定した教室ではなく時限ごとに移動したように記憶する。第一校舎裏には木造校舎二棟（第一館、第二館）があつて授業を受けたことがあり、数クラス合同の動員説明会などには、第一校舎二階中央の図書室（現国語科・社会科・数学科教員室）が使われた。県立山口中学校卒の目には、屋上に無線アンテナが林立し、壁の分厚い鉄筋の校舎は、まるででっかい一隻の軍艦のように思われた。北寮は塾の学生寮として使われており、クラスメートを訪ねた時には、ちょうど急ピッチでコールタールが塗られて迷彩が施されているところだった。クラスメートの話では、近

いうちにこの寮を出て、駅の向う側の野球場の木造合宿所に移るということであった。広大な陸上競技場の一角では作業中の海軍兵士の姿を見ることがあったが、いつの間にやら第一校舎正面前には二基のコンクリート製の防空壕出入口ができ、警報が鳴ると海軍さんや女子職員の出入りする姿が見られた。

2004年4月20日(火)第70号

(7)

親元を離れての初めての下宿生活は、日吉校舎の下見にきて、駅の反対側、駅前近くの八百屋さんに尋ねて決まったものである。食糧事情の悪い時代であったが、昼食ぬきの二食付きで横浜市港北区日吉本町1851奥村長生方に下宿させてもらうことになった。他に藤原工大予科を含めて三名かの生徒が世話になっており、食堂で食事をとった。初め一階の六畳に、その後静かな二階の四畳半に部屋を変えた。駅前にはかなり大きな丸善書店(現工事中で建物無し、亀屋の駅側)と徴用のために店を閉じたと思われる数軒、少し離れた所に郵便局があるくらいで、駅前から五本の街路が放射線状に延びた、閑静な新興住宅地だったように思う。駅から下宿までの間には古本屋山村書店(現Starbucks Coffee)と一軒の食事処があったと思うが、いつも休業状態だった。背景となる丘陵には赤瓦葺きの文化住宅が幾軒か点在するだけの緑の丘で、牧場もあると聞いた。朝の散歩で、放射線街路の奥の方、下田町にはラグビー場・野球場などがあり、〈日本ラグビー蹴球発祥記念碑〉という碑を読んだ記憶がある。

5月15日から二週間、勤労奉仕のため栃木県下の村の集会所での分宿があり、ここから農家の応援に出向いた。下都賀郡の何処だったか思い出せないが、小山で乗り換えたように思う。作業内容は、時期から考えて麦刈りだったようだ。お茶請けに赤蕪の漬物が出されたが、私には珍しかった。帰校するとまもなく中間試験が行われ、ほとんど勉強もしていないのに、入学後初めての試験とあって相当緊張した。8月夏休み帰省中と記した丸帽姿の写真が一枚残っているので、夏期休暇があったようだ。そういえば関西・広島方面の友人たちと一緒に東海道線を下ったのが、この時だったかも知れない。

大學予科一年は文・経・法合わせて一二クラスだった。外部から受験して入学した生徒と無試験で内部進学した普通部・商工学校の生徒と、合わせて数百名が在籍していた。『慶應義塾百年史』等を見ても学生数は明確ではなく、私の記録にもないが、昭和19年より入学定員減少と記載されている。A組からK組までは第一外国語を英語、第二外国語を独語とするクラスであり、私たちのL組は英語を第一、仏語を第二とする者と、五～六名の独語を第二とする者を合わせ五〇余名だったと思う。クラス担任は一ノ瀬恒夫先生で、先生の専攻はドイツ語・ドイツ文学であり、週一度のゲーテ・ファウストの話と生徒の自己紹介・研究発表の指導が先生の担当だった。授業には欠席者がいたが、一週の間割では丸一日と半日が軍事訓練に当てられ、この日になると出席する珍しい顔が増えた。これは旧制中学での教練の成績と予科での出席日数とが、入隊後の幹部候補生採用試験の可否を左右するからであった。中学時代は武器庫に三八式歩兵銃が一人宛割り当てられていたが、予科では一丁を幾人かで共用するので責任感も薄く、油塗りの手入れは疎かになった。査閲(軍事教練では成績を実地に調べることもあり、査閲官がいた)では、日吉から多摩川河辺まで銃を担いで中原街道を往復させられた。

昼休み直前の授業が終わると、赤屋根食堂に駆けつけて行列をつくらぬかぎり売り切れで、その日は昼食抜きとなってしまった。お米ではなくうどんを細切れにした代用食であっても、食糧事情が悪くなる一方の配給下では、自宅通学者であっても一人分外食ができれば、家計には大助かりであったからだ。お陰で下宿している者には災難だった。母からは卵・砂糖・飴ぬきで小麦粉を焼いた擬似どら焼き風の皮、梅干のお結び、干し柿などの小包を毎週のように送ってきて、多少の黴などは気にもしないで口にした。石鹼をお土産に日吉近くの馴染みの農家を訪れ、富有柿や梨を売ってもらう友人のお供をして、多少分けてもらったが、その場所は思い出せない。私の方は買い求めた図書を一貫目の小包にして、わが家に送ったが、郵便局の受付個数には制限があった。勉学だ人格形成だとはいっても、しょせん私は食べ盛りの若者に過ぎなかった。(以下

次号に続く)

旧制高校の入試に失敗した負い目は長く尾を引き、教師が教室に見えるまで、ウクレレを爪弾き『八百屋お七』を歌ったり、窓を開けて喫煙後の紫煙を出したりで、私大予科の実態を知らされた思いが強かった。徴用工に引っ張られるにしても、学校をやめて親元に帰りたいと訴えたが、母は妹の世話を知人に頼み、一か月ばかり私の下宿に同宿して食事の世話をしてくれたことは、恥ずかしい思い出である。

都内の交通には疎いので、渋谷駅から須田町行きの都電に乗り、神保町で古書を探すの生きがいとしたり、新橋行きで六本木の古本屋に足をのばし、新刊の『解析概論』を買って、これを私の求める古書と交換したこともある。これらの幾冊かが、戦後の学費に化けてしまうとは思わなかった。空襲が続くと古本屋の店頭には買いたい本が増える一方、こちらが持ち込む古本には見向きもされないで買い取りを断られた。当時は新刊書といえど理科系のものばかり、人文科学・文学関係のものはまず出版されなかった。

文・経・法の所属学部の違いをなくし、年齢別のクラス編成が行われたのも、理工学・医学系以外の学生の徴兵猶予が撤廃されて、生徒がいなくなってしまうクラスもあるからだった。昭和18年3月の旧制中学卒までは上級学校進学のために一年の浪人が許されたが、19年3月卒業生からは進学か徴用の二者択一となり、浪人して再挑戦することはできなくなった。

家宛の手紙の文面から思い起すと、9月19日前後、旧友数名との下校途次、日吉駅方向から坂道を上がってくる配属将校・川生大佐に出会い、私だけが欠礼してしまった。詰問を受けて教官室に連行され、欠礼の理由を糾されて不適切な返事をしたらしく、学籍簿の保証人・第二保証人の身元を確かめられ、ともに現役将校であることが判明し、しかもかつて習志野演習場で父を知っているとのことだった。しばらくの間は、授業中であっても呼び出されて、塾出身かの年若い中尉の指導を受けていたが、「今は大人しくしている」と温かく諭されたことがある。

L組では10月まで授業が行われていたが、ついに11月7日から亀戸の風船爆弾造りに駆り出された。動員先は二階か三階建ての精工舎の近く、新しく監督官の将校が派遣されることになった元染め物工場で、亀戸六丁目と七丁目の境にあった日本擬革(あるいは皮革)株式会社だった。トイレット・ペーパーのように束に巻かれた和紙と和紙をコンニャク糊で貼り合わせ、蒸気の通う大きなドラム上を回転・乾燥させて、紙の間に空気が入り込まないように手で撫でつけながら巻き取るのである。コンニャクの粉を水で捏ねて四斗樽に糊を造る級友もいた。グリセリンに漬けて処理すると弾力がでるとかで、両国・国技館や有楽町・日劇などで縫製加工して風船が造られると聞いた。工場はやがて昼夜三交替制の稼働となり、深夜勤者にはサツマイモの粉で作った平たい餅が給付され、自宅から通勤する同僚がまずいというものでも、空腹の身にはとてもうまかった。ただ続けていると舌や胃袋に変調をきたした。

入学時の下宿先から昭和20年2月下旬、西山寮(目黒区駒場町795)に引越した。ここは広津和郎夫人の妹・神山かねさんが経営し、姪の広津桃子さんが女学校で教鞭をとって

お母さんと生活しておられた。動員先の亀戸までの所要時間、雨・雪で不通になることが多く、帰りが遅いと元住吉止まりとなって日吉まで歩かされる東横線に愛想を尽かしたのと、一日二食付きよりも三食付きの下宿が何よりの魅力だったからである。

工場は昭和20年3月10日の空襲に遭って壊滅したという、たまたま私は徴兵検査を本籍地山口県萩市明倫館国民学校で受けるため離京中で、兵役は近眼のため第一乙種となった。3月11日品川駅に帰り着くと、駅頭ホームの騒然と放心したような異様な空気を肌を感じた。工場には下谷商業二年生の少年たちも動員されて『お山の杉の子』を歌いながら働いており、女子挺身隊の人たちも見かけたが、この大空襲でどうなったか気がかりである。機械の轟音や少年たちの歌声に負けじと、六号機の私たちは、明けても暮れても牢屋は暗いと『黒い鳥』や旧制高校寮歌をがなりたてた。

次の動員先は3月18日からの内務省土木出張所であった。鶴見駅近くの国道造成工事の現場で、トラックに土を入れて所定の場所まで押して行く土方仕事だった。その頃強制疎開家屋の取り壊しにも当たったが、中目黒駅辺りだったとは思うものの確かではない。

昭和20年度．．大学予科二年

昭和20年4月5日学校に集合して新たな動員先の説明があった。すなわち南武線鹿島田駅の芝浦電気特殊鋼の組み立て工具研磨係で、ここでは旋盤操作を教えられた。二等辺三角形の形をした特殊鋼を先端に固定した金属棒を旋盤に取りつけ、金属を削るのである。左右の手を同時に逆方向に回すことがまだ会得できないでいた16日、この工場も空襲でやられてしまった。崩壊した建物の下からバイト（金属を削る刃物）を取り出して灰を落とし積み上げるのである。この作業は私の西山寮罹災まで続いた。東横線の工業都市駅か武蔵小杉駅から、南武線の枕木を踏んだり、路肩を歩いて出勤したこともあり、川崎駅回りでも通勤した。工場から提供される半ば焼け焦げのお米で握られたお結びやおはぎをほおばりながら、友人と駄弁るのが目的で、何時入隊通知が来るか分からない我々は、出勤正常ならざる早退常習犯であった。たしか日給二円が報酬だった。

西山寮には十人近くの学生が下宿しており、一高在学中のガンさんと呼ばれる大変風格のある名物男もいた。ポンプで洗面していると軒下で山鳩の鳴く、商売を抜きにした古びた二階建ての学生下宿だったが、5月25日夜10時過ぎ頃から26日払暁にかけての空襲で焼け落ちてしまった。最初は戦災などかわりのない一夜と思っていたが、近くの輜重兵連隊とかに焼夷弾が落ちたと伝え聞き、やがて帝都線の枕木がところどころ燃え始め、火も寮に近づいてきた。付近一帯が明るくなり、強風に逆巻く火の手が音を立てて吹き荒れ、屋上でバケツを使って防火しても焼け石に水で西山寮が危なくなり、ガンさんの指示で一高の武道場（無声堂）に避難して全員無事だった。夜具は自室にのべたままであり、崖下の防空壕内に入れておいた、衣類を詰めたトランクも燃え尽きているのを翌朝確かめた。一高前駅からの細道には焼け残った樹木や家屋の一带も目に入り、土地の起伏に左右されたのか激しい火勢と熱風が気ままに走った跡であった。

生活の場を失っては親元に帰るほかなかったが、寮の経営者は収入源を失い、しかも住む場所もなく大変なことだった。火が回ってきた時の下宿のお婆さんの耳をつんざく悲鳴が忘れられない。渋谷駅で見た掲示で山手線は不通、回復した東海道線は品川駅から発着していることを知り、保証金を払っては買い求めた貸本を収めたリュックだけを背に、品川駅まで歩く覚悟で出発したが、幸いトラックに拾われた。京浜デパート沿いの街路上に行列を作って一晚を過ごし、罹災証明書を示して乗車券を買い、5月28日12時発かの列車に乗り、急行で24時間を要するところを30時間近くかかって山口に辿り着いた。戦闘帽に受け取った乾パンと出征した友人の残して行ってくれた真っ白い切り餅を生のままかじって飢えをしのいだ。空襲を体験したことのない母からは、寝具や衣類の所在を尋ねられ惜しがられた。

6月9日か10日母の知り合いの軍人さんが自宅に見え、私の入隊を知らせてくれた。下宿の罹災と工場の欠勤、そして入隊を担任の一ノ瀬先生宛毛筆で認めて休学届を郵送したが、空襲下の郵便事情を考えると、先生が受け取られたかどうかは疑わしく、戦後も先生に確

かめていない。

6月18日山口市の西部四部隊に入隊した。営門の前に集った人たちは、寄せ書きをした日章旗を斜めに肩に掛け、家族との別れを惜しんでいた。私は奉公袋だけを持って見送りの家族と待機していたところ、中学時代の同窓生数名から、「好い気味だ、軍隊で鍛え直されて来い」と罵られたことが忘れられない。行軍で秋吉洞近くの大田を経て、28日日本海側の三隅国民学校（大津郡三隅町）に到着、大国28346部隊田辺隊に所属した。教室が兵舎となり、学校付近での訓練が始まった。

入隊早々は毒ガス小銃担当と告げられたが、軽機関銃分隊として訓練された。石ころの多い川原で両肘・両膝を使って匍匐前進を繰り返し、木切れで鉄兜を叩かれながら鍛えられた。各自が見よう見まねで編んだ即席のわらじを装着しても、大変厳しく体にこたえた。仙崎港まで行軍し、「貴様らの生死与奪の権は自分にある」と絶叫する中隊長の抜き身の拳銃に脅かされながら、満州から到着したという60キロかの大豆袋を運ぶ体験もさせられた。万事が要領の軍隊では、荷揚げ中に竹筒を袋に差し込んでちょろまかした大豆を豆腐に変える古兵の腕がねたましかった。

本来は入隊三か月後に受けるはずの第一期検閲が近づいてくると、速成兵士の訓練は専ら戦車に対するものに変った。ビルマ戦線で考え出されたとかいう戦法は、大地に穴を掘って身を隠し、戦車に見立てた大八車が近づいてくると、かなりの重量の一边30センチ位の立方体の木箱に砂を詰めて爆雷に見立てたものを、車の両輪の間に投げ出して戦車を爆破し、わが身を地上に伏せれば助かることもあるという肉弾攻撃だった。爆雷は箱爆雷あるいは破甲爆雷もしくは破鋼爆雷かもしれないが、口伝教育なのでつまびらかではない。体中の水分がすっかり汗となって流れ尽くすような真夏の灼熱の炎天下、娑婆では振り向いたこともない真桑瓜でも、小隊長の私費で配られた時の生き返ったようなひとときは忘れられない。軍隊訓練で受けた身体上の苦しさを思えば、相当な苦難であっても克服できないはずはないと、戦後の生活で幾度そう思ったことか。

敗戦は8月17日だったかの軍旗焼却で知らされた。少量の生地 of 灰を付与され、今時の四十七士気取りで、連合軍に対する復讐を誓わされた。列車の屋根の上にまで人を乗せて、復員は遠距離の高齢者から始まり、一番若い自分たちは憲兵要員として、8月30日三隅から山口の原隊に帰った。遅れてやって来た神風が、敗戦後の木造兵舎に吹きつけ、かなり大きな中隊の建物を土台から揺さぶり、台風襲来の怖さを体験した。次いで豪州軍が進駐してくるというので、10月16日秋吉台の演習時に使用する兵舎に移動した。用務といえ、時に将校宅に粉末味噌・粉末醤油・携帯口糧や机・椅子などの備品を運ぶ私用のようなもので、これは使役と呼ばれた。粉末の調味料のあることを軍隊で初めて知った。時に煙草・菓子が一兵卒にまで配布されたが、自分の軍隊経験では酒保など見たこともなかった。当時、喫煙習慣はなく、菓子と交換して随分ありがたがられたものだ。あとは毛布にくるまり横になっているだけの毎日となり、退屈さを紛らわせるための悪戯心から『ほまれ』や『光』を吸ってみて、目が回るどころか美味しくて病みつきとなった。復員時には星二つのボツダム一等兵に進級し、月の手当で10円だかの一年半分かを給付されて自宅に帰り、しばらくの間、蚤と虱退治に熱中しなけりなかつた。

昭和21年度．．． 大学予科三年

昭和20年5月予科二年で罹災して帰山、入隊・復員と人並みの体験をした。在京する親戚や知人はなく、空襲による惨禍を考えると下宿などあるはずもなかった。それでもL組の友人に下宿探しを依頼し、「復学を願っている者がいることを忘れないでもらいたい」と訴える手紙を書くことが私の仕事となった。そのお陰で突然クラスメートから電報を受け、昭和21年10月18日杉並区馬橋2丁目一鳴荘別館内に住んでいた母の知人の好意を頼って上京、21日に予科三年に進級するための追試験を受けたが、下宿などはなく28日には帰郷するほかなかった。三ノ橋の予科校舎（港区新堀町7）事務室に出頭すると、日吉の空襲と撤収で学籍簿が焼けたとかで所属学部・氏名などの自己申告をさせられ、英語・仏語・数学の試験を受け、他の科目はレポートとして山口から送付させて頂くことになった。

山崎福二先生が対応してくださったように思う。

入学時には二年制の大学予科であったが、敗戦によって予科は三年制に戻った。勤労働員と入隊だけで予科二年に進級したままだったので、三年に進級するための試験が必要とされた。しかし三年になったまま一日の出席もないので、21年度は原級に止まり、22年度に改めてもう一度三年生としての勉学を続けることになった。

京浜線の川崎駅と東京駅間の海側を見渡すと、すっかり一面瓦礫の山の焼野原であって、復学は果たすことができるとしても、下宿探しとなると別問題で困難の極みであった。食糧事情は最悪、お米を月ごとにいくらか用意すればと言われても、農家ではない私には打つ手立てがなかった。学業を続けるには経済上の問題が大きく、八方塞がりだった。入隊時までクラス担任であった一ノ瀬先生に下宿問題の解決を助けて頂くようお願いして、21年2月には一度上京するよう勧められたこともあった。久里浜の海軍通信学校跡への塾一部の移転交渉、九段禁衛府の学生会館への変身、塾内での学生の福利・厚生部門の創設などをお知らせ頂いた。陸海軍の諸学校生徒には官公私立への無試験の編入が認められたが、私大予科生にはこの門戸は開かれず悶々の日々であった。

私は無収入のまま遊んでいるわけにも行かず、敗戦の翌年昭和21年5月28日から、母のついで山口県地方世話部雇員に採用され、遺骨班に配属され庶務に従事した。敗戦までの連隊区司令部であり、外地からの復員兵によって持ち帰られた遺骨・遺品、戦没者名簿を受領してご位牌を作り、遺骨箱にお納めして白布に包み、県下各地で御遺族に伝達、靖国神社合祀を申請するなどが業務であった。しかし復学を果たすため、ここを昭和22年3月29日に退職した。

昭和22年度．．．大学予科三年（2度目）

4月17日品川駅着、西山寮にいた新潟出身の友人に下宿探しを助けてもらって、彼のおじさんの知人の縁で、神田神保町三省堂の裏だったかの喫茶店を訪れ、中二階の空いている床部分を借りることにした。友人が帰宅すると、「女給さんが間借りしていて風紀上好ましくない」と忠告され、とどのつまり友人が寄留中の六畳玄関の間に、食事・部屋代なしで同居させてもらうことになり、4月25日大田区大森9丁目296笠原由太郎方に押しかけた。こうして下宿問題は他人の犠牲によってひとまず解決したことになり、5月1日から二度目の予科三年生として登校した。

職業軍人だった父は、昭和19年初め南京を落ち、ダバオ方面の南方に行くという言い伝えをしたままの生死不明だった。敗戦の翌年2月南海派遣ラバウル第一集団本部、つまり捕虜収容所からの軍事郵便ハガキで生きていることが分かり、21年5月突然復員し帰国、一か月余り復員局嘱託として残務整理に従ったあと、公職追放で無収入となった。女学校を出たばかりの妹が銀行勤め、彼女が唯一の現金収入者であり、郵便貯金からの教育費用の引き出しも在学証明書を見せての制限付きだった。学資が無くなれば退学する前提で復学を果たしたのである。なお父は私の卒業前年度昭和24年12月に死去し、以後母の弟が母に小遣いを月1500円渡してくれて、間接的に私を補助してくれた。

とにかく予科卒業を取りあえずの目標として、三ノ橋の授業には真面目に出席した。教師の方も心得たもので、一年後輩に当たるクラスの外国語の授業など、戦争中の動員で行えなかったらしく、かなり程度を下げているように思われた。予科を終了して退学するかどうか、私にとっては何よりの頭痛の種であった。

昭和23年2月29日、数寄屋橋のたもとをたまたま京都出身のL組の友人と歩いていて、学生ピーナツを売っている丸帽姿の藤原工大の塾生を見かけ、友人が声をかけてくれた。明治学院在学中の学生だかが主催する学生互助会という団体のあることを知った。記憶も定かではないが、御茶ノ水駅近くの本部事務所を訪ねてピーナツ売りをさせてもらうことになり、どうにか学部に進学して学業を続ける目安ができたと思われた。とはいっても学生が本業なのか、アルバイトが本業なのか分からなくなるありさまだった。

以後アルバイトは学生ピーナツ売り、アイスクャンデーの製造・販売、闇のコッペパン売り、リンゴ売り、鋳物工場での砂落としと続けた。予科三年を終了したところで、一ノ瀬

先生の好意で日本育英会奨学資金の申請をしていただき、昭和23年8月21日に採用通知を受けて、学部一年から卒業までの間授与された。就職後に結核・手術による入院中を除き、毎年年度末に返還した。家からの僅かな送金の他に、奨学資金と学生アルバイトによる現金収入がなければ、学業の継続などできるはずはなかった。

昭和23年度．．． 大学学部一年

学部入学式は昭和23年4月12日で、とりあえず進路を文学部フランス文学専攻に決めて、午前中は授業を聴講、午後はピーナツ売りに変身した。幻の門の前近くの外食食堂で昼食をとって、事務所に出勤し、割り当てられたその日の場所にダンボール箱と簡易な折り畳み式の台を持って出かけるのである。

3月2日地下鉄銀座線の京橋駅の出入口に初めて立った。まじかには赤レンガの東京相互銀行のビルがあったと思う、ウイスキーグラス一杯分のピーナツが三角形のセロファン袋に入れられてダンボール箱に2100個詰めてあった。二袋15円で売って幾らかもらったが思い出せない。退社時の勤め人を狙って「二袋15円の学生ピーナツはいかがですか」と呼びかけるのだが、いつごろから声が出るようになったのだろうか。新橋駅構内では新聞売りの兄ちゃんに、ちょっと貸した学生服にはおるジャケットを持ち逃げされたり、日本橋白木屋横の地下鉄口では、路上にかなりの紙幣を落とした人に声をかけ、後から自分のものにしておけばと思ったこともある。

そのうち数年前慶大予科に在籍して、浅子先生から国史を教わったという東大法学部の学生から声をかけられ、所属するグループからの独立に誘われた。新しい団体は有楽町のガード下にあった日の基事業団で、選挙時には社長を応援し、学生グループに出資してもらったらしい。東大農学部院生と法学部学生の二人がボスで、今度は東横線のガード下・渋谷区並木町31吉田文一（あるいは又一）さんのウドン製造所と同じ板囲いの中で、アイスクャンデーの製造・販売に当たった。5月13日大森の笠原さん宅を引き上げてここに移動し、蛸友会と名乗って19日から製造機の運転を始めた。板囲いの中には一畳半位の板敷き小屋があり、ここがねぐらであり、事務所にもなった。

市販されているサクサクとした歯応えのするアイスクャンデーが製造できず、砂糖の代わりにサッカリンやズルチン、あるいは澱粉を使ったりして苦労した。夜遅くまで製造して冷凍庫を満杯にしておき、陽が上がって暑くなると近くの渋谷実践・青山学院などの学生が集まってくるので、彼女らにキャンデーを卸すのである。製造所は渋谷駅裏口を利用する人たちの通学路上にあった。木製小箱を肩に周辺を恵比寿あたりまで売り歩き、箱に残った箸の本数を確認して、販売本数の代金を納めてもらうシステムだった。常時稼働しているモーターが製造・保存の原動力であり、区画内に響く騒音は相当なものだった。徴収した代金をボスに渡した後のことは残念ながら知らない。

アイスクャンデーは秋風の訪れと共に売れなくなり、渋谷駅裏口に降りる担ぎ屋さんの荷物を預かって、9月初めだったか渋谷警察の裏手の道場に同僚と二人、引き止められて正座させられたこともある。闇のコッペパンを軍隊時代の雑嚢に入れ駅近くの日本通運の仲仕さんに売り歩いたり、井の頭線ガード下の店先でリンゴ売りの経験もした。10月中旬からは千葉県松戸とかから仕入れてきた落花生を煎って、キャンデー製造機の上に広げて冷やし、ウイスキーグラスで量って袋に納めて学生ピーナツを作り、販売範囲を新橋駅までと限って、地下鉄沿線各駅で学生を使って販売した。昭和24年2月6日ボスたちは、キャンデー溶液と割り箸を入れて、アンモニア液のタンクに漬けて製造に使用した多くの金属管を売却して急場をしのいだ。板囲いに集まって働いた学生たちも徐々に姿を消し、私も昭和24年2月17日には大森の笠原さん宅に帰った。

昭和24年度／25年度．．． 大学学部二年／三年

旧制私立大学最後の学生として、昭和25年9月に卒業するまでの一年余は笠原鋳造合金の鋳物工場で砂落しに従事した。授業があれば午前中だけ聴講し、時間のある限り卒論の準備にも当たった。一緒に入学し中国から復員・復学し、私を自分の部屋に同室させてくれた一歳年上の友人は、昭和25年3月英文科を卒業したが、希望したジャーナリズム界に

は適当な就職口がなく、経済的には恵まれていたので9月過ぎまで高等遊民だった。そのうち彼は別天地を開拓するとかで函館に移ることになり、私は一人となった。

入学時から起算すれば本来昭和25年3月卒業のはずだったが、復学が一年遅れて昭和26年3月卒業予定のところ、学制改革により繰り上げで昭和25年9月末の卒業となった。翌年3月まで在籍することは認められたが、育英会の奨学資金が9月打ち切りと決まり、学業を続けることはできなかった。たまたま慶應義塾図書館の館員募集があり7月28日に応募したが不合格、8月には中学時代の担任でもあった数学の教師が、山口県の教育委員会に勤務しておられた関係から、山口県都濃高校と安下庄高校の英語教員の就職口を紹介されたが、英語担当には自信はなく、県の実施する統一試験を受験しないで教員になれる最後の機会であったが辞退した。8月7日慶應義塾塾監局事務員募集の掲示に応募して、三田と日吉のそれぞれで面接を受けて採用され、9月11日から日吉事務室に出勤した。

教務課でトレーニングを受けていたところ、日吉研究室開設の運びとかで、16日から図書館日吉分室・事務室の片隅で教員用図書の整理に当たることになった。図書整理のにわか勉強と図書館側の指導を受けながら、リング箱に詰めて積み上げられていた図書（主体は旧予科図書室所蔵の和洋書）の登録・分類・装備を12月までに終えた。

また永い間寄留させて頂いた笠原家の次女の方の結婚も決まったとか、お祝いをと思いながら懐具合は苦しく、昭和25年12月10日蒲田駅近くの大田区女塚2-6唐沢寿寿子方に転居した。塾の給料は低く、六畳二人の相部屋での下宿生活が始まった。昭和26年春休みには塾図書館方式による和書目録の作成に着手し、5月7日旧日吉寄宿舍の北寮に引越し、ここが大学教員の研究個室・書庫および事務室となり、15日日吉研究室が開室した。

この文を書くに当たり、六〇年前の日記帳をひもといてみた。山口中学時代の担任・武田義孝先生はベルリンオリンピックの体操の主将だったが、私が中学四年の頃結核で亡くなられた。先生は日記をつけることを奨励され、その影響を受けた。日記は戦争が激しくなっただけからは検閲を恐れて鉛筆書きにしたり、インク不足で粉末インクを水で溶いて使用したため、判読できないところがあった。しかし今回日付を書き入れることができたのは、この日記のお陰である。また、母もよく手紙をくれていたことが大変役に立った。今は亡き母に感謝を奉げる。

(元慶應義塾大学日吉情報センター副所長)

緊急報告 第4弾！

航空本部地下壕「マンション建設」について
開発審査会に「執行停止」「審査請求」申し立て

「公開口答審理」開かれる。

これまでの会報でお伝えしてきましたが、日吉台地下壕群の中の一つ、新幹線下の航空本部地下壕入り口4ヶ所が斜面緑地マンション建設に伴い、破壊されそうな情勢です。

横浜市がこの3月19日、マンション建設業者に対し建築許可を行ったことについて、3月23日日吉台地下壕保存の会運営委員会有志及びマンション建設に反対する住民の会は横浜市開発審査会に対して、審査請求書及び工事執行停止申立書を提出しました。市からは、申立人には申し立てによって利益を得る資格が無いこと、あくまで都市計画法に基づいて許可を行ったということを骨子とし「執行停止」と「審査請求」について却下を求める弁明書が出されました。

6月2日（水）関内の駅前第二ビルにて開発審査会によって「公開口答審理」が開かれ、会から申立人の運営委員有志3名と傍聴人1名が参加しました。また市から2名の陳述人が出席しました。傍聴人の中には業者2名も来ていました。住民の会から申立人4名と傍聴人2名が参加し、申立人は審査委員5名の前でそれぞれ意見の陳述を行いました。

住民の会からは業者から提出されている設計は戸建て2戸分のもので、そのための道路は4m道路で良いはずなのに、始めから5m道路を作ろうとしているのはマンション建設のための設計変更を前提としている、それを市がとがめないのはおかしいという追求があり、それに対して市はあくまでその時提出された設計に対して許可を行っているとは主張しました。保存の会3名は航空本部地下壕が文化庁の史跡候補にあがっていること、地下壕は近代の文化財として大変な重要性を持っていることをそれぞれ述べました。

今後審査会審査が行われ、審査決定が出されますが、状況は決して有利ではありません。市の工事許可を認める決定が出されることが十分考えられます。

海軍航空本部といえば、かの山本五十六元帥が戦前海軍省で航空機開発のために本部長として心血をそそいだ部署であり、日本の航空機開発の歴史にとっても重要なところです。もし工事許可を開発審査会も認めるならば他の先進自治体と比べ、横浜市の歴史認識の浅さを後世にまで残すことになるでしょう。

会員の皆様には今後の推移を是非ご注目下さいますようお願いいたします。

(文責：運営委員 谷藤

基夫)

(続報) 緊急報告 第5弾!

航空本部地下壕マンション建設

「工事執行停止請求」「審査請求」却下される!

横浜市開発審査会裁決の結果はやはり「却下」でした。保存の会の主張した航空本部地下壕の史跡、文化財としての重要性については一言も触れることなく……。ただ審査請求人にはその適格性が欠けるということで……。いわば門前払いの形で……。この結果は他の先進自治体と比べ横浜市の近現代史に対する認識の後進性、浅薄さを如実に示すものです。工事はいつ始まってもおかしくない状態になりました。航空本部地下壕入り口4ヶ所はきちんとした学術的調査を経ることなく、間もなく取り壊されるでしょう。業者は利益のために緑地を破壊し、マンションを建設し、転売し、去っていくでしょう。「過去に目を閉ざすものは結局の所現在にも盲目となる。」ドイツのヴァイツゼッカー元大統領の名言が思い出されてなりません。

6月22日付けで横浜市開発審査会会長より、審査請求人(総代 茂呂秀宏外8人)及び処分庁(横浜市長 中田宏)に対し、裁決書が送付されました。主文「本件審査請求を却下する。」

理由は請求人と処分庁双方の主張を列記した上で、「審査会の判断」として、「開発行為に関わる設計等が都市計画法第33条の規定に適合しているときは市長は必ず許可をしなければならない」また「都市計画法第33条の規定自体は開発区域周辺の個々の住民に対して直接に個別・具体的な権利を付与されるとは解されず、審査請求人は本件処分の取り消しを求める審査請求人適格を有しない」従って「本件審査請求は審査請求人としての適格性に欠ける不適法な審査請求であるから、その余については判断するまでもなく行政不服法第40条の規定を適用して、これを却下する」というものです。

却下の裁決を受け、保存の会及び住民の会では今後の方向性について検討しています。

7月2日（金）宮前公会堂において住民の会の話し合いが行われ、保存の会からも2名が参加しました。

話し合いの内容は主にこれまでの経過報告で、オブザーバーとして同じ港北区内で里山の自然を守る運動をしている住民の方と赤門坂の斜面緑地マンション建設に反対して係争中の住民の方がこられて、経験を報告してくださいました。今後についてはさらに検討が進められます。

（文責：運営委員 谷藤基夫）